

イギリス、農畜産物の生産性の向上と環境負荷の低減に£90Mを拠出

イギリスは、これまでの農畜産物の生産に変革を起こし、環境への影響を劇的に減らすことを目的とし、政府の産業戦略チャレンジ基金（Industry Strategy Challenge Fund 以下、ISCF）から拠出される£90M(126億円)の最初の資金提供は、本年9月末に開始される。

これは、政府の近代的な産業戦略の一環であるトランスフォーミング・フード・プロダクション・チャレンジ（食糧生産の変革への挑戦）は、ロボット、衛星、ビッグデータ、デジタル技術、人工知能を備えたイギリスの農畜産物の生産ノウハウを集積させ、2050年までに、地球の90億人の人口を養うことができるようにするために、必要な農法を世界に提供することでもある。



広大な農地で全自動運転農機による小麦のハーベスト

産業戦略チャレンジ基金（ISCF）を通じて資金提供され、農村の成長を促し高度に熟練した雇用を創出し、汚染を減らし廃棄物や土壌侵食を最小限に抑えながら新たな輸出機会を開くことにも貢献できる。

UK Research&Innovation（UKRI）の”食糧生産の変革への挑戦”のエグゼクティブである Melanie Welham 教授は、「精密農法は農業と畜産物生産の未来である。農場、牧場や工場にスマートな技術を導入することで、イギリスにとって大きなチャンスがあり、”農場から枝へ”のサプライチェーン全体を変革することである。私たちは今、その機会を把握しなければならず、ISCFがこれを実現するのに、役立つはずである。私たちは、持続可能な農場・牧場で、健康で栄養価が高く経済的に実行可能な農畜産物を生産し、農地や将来の世代のために広い環境を維持することもできる。」と述べている。

イギリスの農畜産技術部門は、約50,000人を雇用して、イギリスに£1430M(2100億円)の経済効果で貢献しており、農業から3D印刷までの先駆的技術を開発している企業や研究者も参加している。

基本的な生物学から農業分野まで、イギリスは作物や家畜を熟知し、世界をリードする研究と産業の本拠地でもある。更に、環境管理と地球観測、センサ、ビッグデータ、人工知能、ロボット工学の世界的リーダーを目指し、これらの強みを統合することで、今後の農畜産分野の変革の可能性が高められる。

最初の、資金提供は9月末に開始され、£20M(28億円)までの投資が行われる。農畜産技術部門と研究機関のコラボで行われる、以下の2つのテーマがある。

- ・農畜産物の生産システムにおいて、生産性を最大限に高め、環境性能を向上させる新しい高効率、高付加価値の食糧生産システムを開発する。

- ・プロジェクトは、強い意思決定の支援の下、精密農業技術ソリューションおよびシステムの開発に重点を置く必要があり、環境技術、社会科学とデジタル技術とエンジニアリングソリューションを組み合わせることで生産性を向上させる。それには、農場とサプライチェーンを結ぶ技術とソリューションの開発、技術を他の部門から農畜産業に移転させるためのシステムが必要で、その開発を目指す。

補足説明

- ・イギリスの Research&Innovation が提供する産業戦略チャレンジ基金は、イギリスが将来の研究と商業化において世界をリードする技術の進歩を促進させ、将来に適したイギリスの産業が発展出来るように設計されている。

- ・これは、政府の産業戦略の一環であり、農畜産業の生産性を高め、効率的な電力消費を達成し環境負荷を減らすための長期的な計画である。今後、研究開発費を£470M(約660億円)増額するという事は、政府のコミットメントの表れでもある。

イギリスが果敢に2050年の世界人口90億人の食糧供給事情を見据えて、環境への負荷を減らしながら食糧生産性の向上に、イギリスの持てる環境管理と地球観測、センサ、ビッグデータ、人工知能、ロボット、衛星、デジタル技術等を結集して取り組んでいる状況に感心せざるを得ない。翻って、日本を見てみますと、食糧自給率(カロリーベース)が40%台と、先進国で最低の状況の中、どの様にして、爆発する世界人口90億人の食糧供給に何を持って貢献できるのか、国としてのコミットメントを見てみたいものである。(了)